

# はじめに

宮城学院女子大学キリスト教文化研究所共同研究「多民族社会における宗教と文化」は、2013年度の活動として、3回の公開研究会を開催した。本年度から客員研究員としてご加入いただいた豊山亜希氏を始めとして、学外からも複数の気鋭の研究者をお招きした。いずれの発表も、文化人類学や地域研究の領域において新たな研究テーマに果敢に取り組んだ内容であり、例年にもましてバラエティに富んだ、充実した議論を展開することが出来た。

本年度に開催された研究会の詳細は、以下の通りである。

2013年7月24日（日本文化人類学会東北地区研究懇談会との共催）

「英領期の北インド・ラージプターナーにおける商家建築ハヴェーリーの変容」

豊山亜希氏（国立民族学博物館外来研究員、宮城学院女子大学キリスト教文化研究所客員研究員）

2013年9月28日

「確かさを求めて—診察室で立ち現われる不確実性に医師と患者はいかに交渉するのか—」

磯野真穂氏（早稲田大学文化構想学部助教）

「集合のリアリティ/個のリアリティ—アメリカの「肥満問題」から考える不確実性—」

碓陽子氏（金沢大学研究員）

2013年12月10日（日本文化人類学会東北地区研究懇談会との共催）

「人びとをつなぎなおす震災下の伝統的生業—福島県会津若松市の青物小売りを事例に—」

佐治史氏（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程）

これらの公開研究会における発表について、あるものは口頭発表の内容を書き起こし、またあるものはその内容を発表者に改めて論文として書き下ろしていただき、研究会における質疑応答の内容も併せて、今号に掲載する運びとなった。

執筆者には多くのご苦勞をかけることとなったが、無事に4本の論考が『多民族における宗教と文化』に掲載できたことを、感謝したい。

共同研究代表 市野澤潤平